



コルネリオ会

(キリスト者自衛隊員の会)

ニュー・ステラ - No.94

2001年 4月

軽井沢セミナーに参加して

石川信隆 (防衛大学校教授 コルネリオ会会長)

私は、この度家内と元旦の夕方から3日の正午まで軽井沢恵みシャレ - の新年聖会に参加する恵みを受けました。今年

は平野耕一先生による「キリスト者の遺産」というテーマでした。

主イエス様は、私達に偉大なる遺産を遺して天に帰られましたが、ほとんどのクリスチャンがその与えられた遺産の内容に対して確信を持っていない。イエス様は私達一人一人に 100 億円の遺産(しかもその遺産は使っても使っても減らない無尽蔵の遺産なのです。)を遺して下さったのに、私達はその莫大な遺産を使わずに貧乏で惨めで暗い信仰生活をしているということでした。

では、その遺産の内容とは一体何でしょうか。それは遺言書(Testament)つまり聖書にはっきり書いてあります。

第1は罪の赦しの遺産です。“自分の罪が赦された”という確信があいまいなために未だに晴れ晴れしない惨めで暗い生活を送っている。イエス様が遺して下さった“完全なる罪の赦し”の遺産を使えばもっと自由で明るく喜びに満たされた生活が送れるはずだとおっしゃいました。

第2は聖霊のパワーという遺産です。「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、

あなたがたは力を受けます。(使徒1:8)」この聖霊のパワーを使えばもっともっと多くの人知を超えた不思議なわざが起こるはずです。

第3は祈りの遺産です。「祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。(マルコ 11:24)」

第4は神様のご臨在という遺産です。「見よ。わたしは世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。(マタイ 28:20)」イエス様はこの最後の遺言を私達に遺して天に帰られました。

イエス様が、このように素晴らしい莫大な遺産を私達に遺して下さったことを確信し感謝して、その遺産をもっともっと上手に使ってダイナミックで明るく輝いた生活をしましょうという内容でした。

2日目の夜は、森 祐理さんのコンサートがあり、まるで天国で天使の歌声を聞いているような恵みの時を過ごしました。

この感動的な2泊3日の新年聖会を通して“もっと主に近づく”き、主のご臨在を味わいたい”と願わされて帰ってまいりました。

部隊移動を経験して

園林 栄喜 (コルネリオ会会員)

3月1日、私の所属する第301 ダンプ車両中隊は朝霞駐屯地から古河駐屯地へ移駐しました。朝霞駐屯地は規模も大きく、諸施設も充実していましたが、古河駐屯地は規模も小さく、駐屯している部隊も比較的少なく、田舎に来たというのが第一印象でした。

今回の部隊移動を通して教えられたことをいくつか述べてみたいと思います。

1 何が最善か

今回の部隊移動では多くの隊員が朝霞から古河へ引っ越しました。私はできる限り隊員の要望に答えてやりたいと思いい上級部隊と引越しの日時、事前の部屋の確認、部屋の鍵の受領要領などなど逐次調整していましたが、隊員の要求を十分吟味もせず上級部隊に要求していたため、しまいには「そんなに要求ばかりされても、要求は膨らむ一方だ、收拾がつかなくなる。」と上級部隊の担当者から指導されました。

人の欲にはきりがありません。とはいうものの、住み慣れた朝霞を離れる隊員家族のことを考えるとできる限りのサポートをしてやりたいと思うのも当たり前のことではないでしょうか。だからこそバランスが必要なのです。父なる神様が我々を愛し、多くの祝福を与えてくださっていますが、いつも我々の思うように祝福を下さることはありません。人の考えはいつも最善とは限りませんが、神様が最善をなして下さいます。(たとえ人には最善に見えなくても)それは、すべてをご存知だからです。言い方を代えれば、全体の動

きがかかっているため、一つ一つの場面でどうすることが正しいのかわかるのです。渦中の人となるのではなく、大局的な判断をする必要があったと反省させられました。何事も、行動を起こす前に、神様に祈り、答えをいただいてから始める姿勢が大切だと思わされます。

2 不要なものを持たないこと

部隊移動では、大小様々な物品を移動させます。大きな物は7t ダンプから小さな物は消しゴムの類まで、すべてを掌握するのはけっこう時間がかかります。長年使用していない書類や不用になった備品も多く出てきました。

イスラエルの民が40年間荒野を旅した時、彼らは身軽に家財道具をまとめて移動したはずですが、必要最小限のものであったか、着飾るものが多少はあったかもしれませんが、定住先を持たない者の特性でしょう。いつの間にか余計なものがどんどん増えていくと、すばやい対応ができなくなるものです。この世にあって、自分が神の国を目指す旅人であることを忘れず、この世の様々な余計な重荷を背負い込み、神様からの命令には直ちに応答できないというような歩みをするのでもないよう気をつけなければと思わされることでした。そのような意味で、今回の部隊移動では、本当に大切なものは何なのかを考える良い機会でした。“だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。”

マタイ 6:33

3 意識改革

今、自衛隊では意識改革ということばが盛んに叫ばれています。業務に取り組む姿勢は隊員一人一人違いますが、私の周りの関係者の皆さんは、幸いにも前向きな

方々ばかりでしたので、非常に助かりました。“それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。”マタイ7:12の実践であると思われま

入校雑感

加瀬典文（コルネリオ会会員）

2000年4月から2001年3月末までの間、航空自衛隊指揮幕僚課程に入校する機会を得ました。

この間、私はクリスチャンとしての立場を比較的積極的に表明しました。指揮幕僚課程は、防衛に関する事以外にも、国内外の政治、経済、社会状況などについて学ぶ場であります。当然宗教問題についても関心が高くなります。「宗教に関する事柄は加瀬が詳しい」という雰囲気は何となく形成されました。信仰的に深い話をする事はほとんどありませんでしたが、一種のあかしにはなったかなと思います。

課程中、英語教育の一環として5分間のスピーチコンテストが開かれました。私はワールドビジョンというキリスト教精神に基づくNGOの制度を利用して海外に里子を持っていますが、そのことをテーマとしてスピーチしたところ結構な反響がありました。私がクリスチャンであることは知られていたもので、これもあかしとなったようです。幾人かの学生がその制度に興味を持ち、ワールドビジョンのパンフレットを

渡すことができました。

課程中の最も大きな論文作成として自主研究というものがあります。この中で私は21世紀に日本が生き残るためには、国家戦略といってもこれまでの現実主義的な国益等に価値をおいたものではなく、現実主義を超えた新しい考え方をしなければならぬ。この現実主義を超えた新しい考え方を導く一つの可能性として、無関心でないこと、国際的な倫理観と呼ぶべきものの確立を提示しました。私はこの国際的倫理観にキリスト教精神を期待したいと考えています。この考えに基づく当論文はそこはかたくそれを匂わせるものとしたつもりです。

提出した段階では尻つぼみの中途半端なものになってしまい、この研究は私のライフワークとして今後も取り組みたいと考えています。

今回の指揮幕僚課程の最大の成果は、自主研究をとおしてライフワークにまず手をつけることができたということでしょう。

になっておりますが、現在講師、開催場所等について役員間で逐次調整中です。

2002年 AMCFアジア大会スケジュール 概要決定

1 2002年8月15日(木)～17日(土)にAMCFアジア大会を日本で開催すること

まだ、決定ではありませんがスケジュールを掲載致しますので、祈りに覚えていただきますようお願い申し上げます。

8月15日(木)

1330	大会受付
1730	歓迎夕食会
1900	開会礼拝
2100	グループ祈祷

8月16日(金)

0630	早天祈祷会
0800	朝食
0915	聖書講演
1045	各国報告会
1200	昼食
1300	写真撮影
1330	自由時間
1730	歓迎夕食会
1900	コンサート
2100	グループ祈祷

8月17日(土)

0630	早天祈祷会
0800	朝食
0915	聖書講演
1100	閉会礼拝
1200	送別昼食会
1400	解散

お祈りください:

- 下記の事項のためにお祈り下さい。
- (1) 御名の崇められる大会となるように
 - (2) 良き会場が与えられるように
 - (3) スタッフ間の霊的な一致が保たれるように
 - (4) 大会の必要が満たされるように
- 2 防大聖書研究会のために
- (1) 救われる魂が起こされるように
 - (2) 講師の先生方のために
 - (3) 石川信隆教授はじめスタッフのため
- 3 コルネリオ会員および家族の信仰の

継承のために

会員近況

下記の皆さんに赤ちゃんが与えられました。おめでとうございます。お祈り感謝致します。

- (1) 長濱貴志・智子兄妹
長濱蒔人(まきと)君 (2000.12.26)
- (2) 圓林栄喜・さゆり兄妹
圓林まいちゃん (2001.1.22)
- (3) 中野久永・しのぶ兄妹
中野光(あきら)君 (2001.3.31)

(献金感謝)

今回も以下の方々から尊い献金を頂きました。心から感謝申し上げます。

(順不同、敬称略)

後藤茂光、安永稔、圓林栄喜・さゆり
加瀬典文、伊澤勲、中山輝三、
大久保真道、西満、納谷憲正、
井坂玲子、滝口巖太郎、柳沢二郎、
宮岡修二、石川信隆、矢田部稔、
山下和雄、長濱貴志、峯崎康忠、
海野幹郎、今井健次、新屋徳治
飯塚正実、中野久永・しのぶ、
岡田成正

(2000年12月1日～3月3日現在)

(月例会案内)

毎月1回、東京福音センターで月例会を実施しています。詳しくは、
ji1cjj@jarl.com
(中野久永)までお問い合わせ下さい。

コルネリオ会広報室(JOCU)

〒306-0234

茨城県猿島郡総和町上辺見 1295-5-507

(発行責任者 山本浩、圓林栄喜)

インターネットホームページ

http://www.bekkoame.ne.jp/~hiyamamo/

電子メール:

hiyamamo@pis.bekkoame.ne.jp

献金振込口座 00130-3-87577

加入者名 コルネリオ会